

2018年版中堅・中小IT活用シーン別スマートデバイス導入の実態/予測レポート

本ドキュメントは「調査対象」「設問項目」および「試読版」を掲載した調査レポートご紹介資料です。

調査対象ユーザ企業属性:	「どんな規模や業種の企業が対象かを知りたい」⇒	1ページ
設問項目:	「どんな内容を尋ねた調査結果なのかを知りたい」⇒	2～8ページ
本レポートの試読版:	「調査レポートの内容を試し読みしてみたい」⇒	9～12ページ

[調査レポートで得られるメリット]

1. 年商/業種/従業員数/所在地といった様々な観点で市場動向を把握することができます。
2. 収録されている集計データをカタログや販促資料などに引用/転載いただくことができます。

調査対象ユーザ企業属性

本レポートでは以下のような属性に合致する700件(有効件数)のサンプルを抽出した調査を行っている。
企業の経営またはITの導入/選定/運用作業に関わる適切な職責を持った社員を調査の対象としている。

有効サンプル数: 700社(有効回答件数)

A1.年商区分: 5億円未満 / 5億円以上～30億円未満 / 30億円以上～50億円未満 / 50億円以上～100億円未満 / 100億円以上～300億円未満 / 300億円以上～500億円未満

A2.職責区分: 企業の経営に関わるまたはITの導入/選定/運用作業を担う職責

A3.従業員数区分: 20人未満 / 20人以上～50人未満 / 50人以上～100人未満 / 100人以上～300人未満 / 300人以上～500人未満 / 500人以上～1000人未満 / 1000人以上～3000人未満 / 3000人以上～5000人未満 / 5000人以上

A4.業種区分: 組立製造業 / 加工製造業 / 建設業 / 卸売業 / 小売業 / 運輸業 / IT関連サービス業 / 一般サービス業 / その他

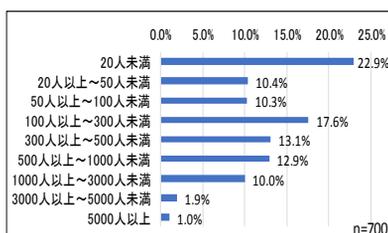
A7.所在区分: 北海道地方 / 東北地方 / 関東地方 / 北陸地方 / 中部地方 / 近畿地方 / 中国地方 / 四国地方 / 九州・沖縄地方

調査実施時期: 2018年1月～2月

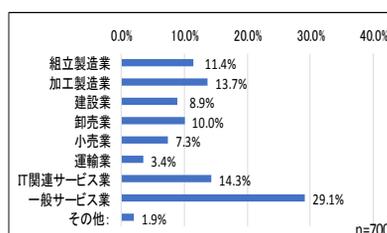
上記に加えて、「**A5.IT管理/運用の人員規模**」(IT管理/運用を担う人材は専任/兼任のいずれか?人数は1名/2～5名/6～9名/10名以上のどれに当てはまるか?)および「**A6.ビジネス拠点の状況**」(オフィス、営業所、工場などの数は1ヶ所/2～5ヶ所/6ヶ所以上のいずれか?ITインフラ管理は個別/統一管理のどちらか?)といった属性についても尋ねており、A1～A7を軸として以降に述べる全ての設問を集計したデータが含まれる。

以下の3つのグラフは700件の有効サンプルの「従業員数」「業種」「所在地」分布を表したものである。『従業員数1000人以上の大企業を中心に、中小企業のサンプルはわずしか少ない』などといったサンプル件数不足や『IT関連サービス業が大半を占めてしまっており、純粋な意味でのユーザ企業が少ない』といったサンプルの偏りがないことが確認できる。

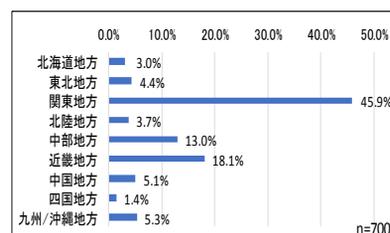
従業員数分布



業種分布



所在地分布



設問構成

本調査レポートにおける設問項目は以下の通りである。一部を除き、いずれも与えられた選択肢から回答を選ぶ選択式設問となっている。「複数回答可」と記載されたものは選択肢を複数選ぶことのできる設問を指し、記載がないものは選択肢を1つ選ぶ単一回答設問を指す。全ての設問について、前頁に記載されたA1～A7の企業属性を軸とした集計データが含まれる。

一般消費者市場においてはスマートフォンが広く普及し、日々の生活に欠かせないIT機器となっている。一方で、中堅・中小企業のIT活用においてもスマートフォンやタブレットを含めたスマートデバイス活用に注目が集まっており、既存の業務システムをスマートデバイスに対応させる取り組みも盛んになっている。しかしながら、中堅・中小企業におけるスマートデバイス導入は一般消費者市場ほどには進んでいない。

ライフサイクルの長期化によってPC販売が伸び悩む状況下では、スマートデバイス活用の活性化がハードウェア販売だけでなく、システム構築の観点からも重要な取り組みの1つとなってくる。そのため、ITソリューションを提案/販売するベンダや販社/Sierとしては既存の業務システムにおけるスマートデバイス対応に加えて、スマートデバイス導入が期待できる新たなIT活用場面に目を向ける必要がある。

そこで、本調査レポートでは、今後有望と考えられる40項目に渡るIT活用場面(ITソリューション)を抽出/選定し、それらに対するユーザ企業の活用状況(導入済み/導入予定)とスマートデバイス利用の有無などについて尋ねている。

40項目に渡るIT活用場面にはDX(デジタルトランスフォーメーション)に該当する項目が多く挙げられている。DXに向けた取り組みではセンサや新たな機器(ウェアラブル端末、ドローン、スマートスピーカなど)から収集されたデータを活用することも多く、こうした新たな機器はスマートデバイスと併用されることも多い。本調査レポートでは、DXに向けた取り組みにおけるIT活用場面(ITソリューション)の中でスマートデバイス利用が期待できるものはどれか?といった観点からの分析/提言に焦点を当てている。

D系列設問:

D系列はB系列で選択されたIT活用場面について、スマートデバイス活用の観点から詳細を尋ねた設問群である。D系列設問においては「スマートデバイスを利用する理由」「スマートデバイス利用における課題」「導入済み/導入予定のスマートデバイスの端末サイズとOS」に関する詳しい集計と分析を行っている。

B系列設問:

DX(デジタルトランスフォーメーション)は中堅・中小企業のIT活用にも影響を及ぼしつつある。そこで本調査レポートではDXと関連する40項目に渡るIT活用場面(ITソリューション)を抽出/選定し、ユーザ企業の活用状況を尋ねている。この40項目に渡る設問がB系列設問である。B系列設問はIT活用場面の種別毎に以下の5つのグループに分けられている。

- B1系列:顧客対応の改善(14設問)
- B2系列:人材の活性化(7設問)
- B3系列:データ処理の自動化(5設問)
- B4系列:現場作業の効率化(8設問)
- B5系列:間接業務の効率化(6設問)

設問番号の表記はB1系列の1番目の設問であれば「B1-1」、B3系列の5番目の設問であれば「B3-5」といった形となる。

次頁以降ではD系列設問とB系列設問の設問文や選択肢を列挙する。

設問項目：D系列設問(1/2)

D系列設問では40項目に渡るIT活用場面(ITソリューション)の中から重要度が高くかつシステム形態にクラウドが含まれ、さらにスマートデバイス利用を伴うものを最大3つまで選択し、IT活用場面(ITソリューション)毎にスマートデバイス活用に関する詳細を尋ねている。(スマートデバイスはクラウドと併用されることが多いため)つまり、40項目に渡るIT活用場面によってスマートデバイス導入の状況がどのように変わってくるかを把握できるようになっている。

調査対象ユーザ企業数は700社(有効回答件数)だが、1社あたり最大で3つまで重要度の高いITソリューションを選ぶことができ、その中からスマートデバイス活用を伴うものに限定しているため、D系列の回答件数は663件となっている。

D1.スマートデバイスを利用する理由(複数回答可)

IT活用場面(ITソリューション)毎にスマートデバイスを利用する理由を尋ねた設問である。導入済みの場合には現状、導入予定の場合は今後の予定を回答する。選択肢は以下の通りとなる。

<<ビジネス関連の項目>>

- ・顧客の多くがスマートデバイスを利用している
- ・PCだけでは顧客との接点が狭くなってしまう
- ・社外で業務システムを利用する機会が多い
- ・業務上、携帯性に優れた端末が必要である
- ・デジタル化やペーパーレス化を推進している
- ・新しいビジネスに向けた試験導入である

<<システム関連の項目>>

- ・スマートデバイスがシステムの推奨端末である
- ・以前からスマートデバイス端末を導入している
- ・個人が所有する端末を活用することができる
- ・スマートデバイスの方が操作を習得しやすい
- ・カメラ/センサ/GPSなどの機能が便利である
- ・スマートデバイスの方がPCよりも安価である
- ・無料のアプリケーションを手軽に併用できる
- ・専用機器をスマートデバイスで代替できる

<<その他の項目>>

- ・その他

D2.スマートデバイスを利用する際の課題(複数回答可)

IT活用場面(ITソリューション)毎にスマートデバイスを利用する際の課題を尋ねた設問である。導入済みの場合には現状、導入予定の場合は今後の予定を回答する。選択肢は以下の通りとなる。

<<システム関連の項目>>

- ・表示できる情報や可能な操作が限られる
- ・アクセス数が急増する状態が起きやすい
- ・対応すべき機種やOSの種類が多すぎる
- ・業務システムとのデータ連携が難しい
- ・端末の機種やOSが頻繁に変更される
- ・アプリケーションの仕様が急に変わる
- ・同一端末内でのデータ連携が難しい
- ・端末のセキュリティ対策が難しい

<<導入/管理に関する項目>>

- ・個人所有端末の通信費負担が問題となる
- ・PCや紙面を用いた古い業務が残存する
- ・個人所有端末の不正な利用がある
- ・従業員が操作方法を習得できない
- ・端末調達のコスト負担が大きい
- ・通信費のコスト負担が大きい

<<その他の項目>>

- ・その他

D3.導入済み/予定のスマートデバイス端末サイズ

IT活用場面(ITソリューション)毎に、利用するスマートデバイスの端末サイズを尋ねた設問である。導入済みの場合には現状、導入予定の場合は今後の予定を回答する。選択肢は以下の通りとなる。

- | | |
|------------------|-------------------|
| ・スマートフォン | 画面サイズ7インチ未満 |
| ・タブレット(7インチクラス) | 例)「iPad mini」など |
| ・タブレット(10インチクラス) | 例)「iPad」など |
| ・大型タブレット(10インチ超) | 例)「iPadPro」など |
| ・タブレットPC | タブレット形状に変化するノートPC |
| ・その他: | |
| ・現時点では判断できない | |
| ・現状を把握できていない | |

D4.導入済み/予定のスマートデバイスOS(複数回答可)

IT活用場面(ITソリューション)毎にスマートデバイスを利用する際のOSを尋ねた設問である。導入済みの場合には現状、導入予定の場合は今後の予定を回答する。選択肢は以下の通りとなる。

- ・iOS(iPhoneやiPadのOS)
- ・Android
- ・Windows Mobile/Windows Phone
- ・Windows 7
- ・Windows 8.x
- ・Windows 10
- ・JavaME
- ・Symbian OS
- ・BlackBerry OS
- ・Ubuntu
- ・Tizen
- ・その他のWindows系OS
- ・その他のLinux系OS
- ・その他:
- ・現時点では判断できない
- ・現状を把握できていない

設問項目：B系列設問(1/4)

B系列設問では40項目に渡るIT活用場面(ITソリューション)を列挙し、項目毎に以下の選択肢に基づく活用状況を尋ねている。単なる「導入済み/導入予定」を尋ねるだけでなく、クラウド/オンプレミスの違いやスマートデバイス利用の有無も把握できるように選択肢が詳細化されている。

40項目に渡るITソリューションの活用状況を尋ねた選択肢

今後導入する予定の場合：

- ・今後クラウド形態で導入する予定であり、スマートデバイスからも利用する
- ・今後クラウド形態で導入する予定だが、スマートデバイスからは利用しない
- ・今後オンプレミス形態で導入する予定であり、スマートデバイスからも利用する
- ・今後オンプレミス形態で導入する予定だが、スマートデバイスからは利用しない

既に導入済みの場合：

- ・既にクラウド形態で導入済みであり、スマートデバイスからも利用している
- ・既にクラウド形態で導入済みだが、スマートデバイスからは利用していない
- ・既にオンプレミス形態で導入済みであり、スマートデバイスからも利用している
- ・既にオンプレミス形態で導入済みだが、スマートデバイスからは利用していない

その他：

- ・活用の予定は全くない
- ・現時点では判断できない

上記の選択肢に登場する各用語の定義は以下の通りである。

「オンプレミス」：

ユーザ企業が業務システムを自ら所有して利用する形態

「クラウド」：

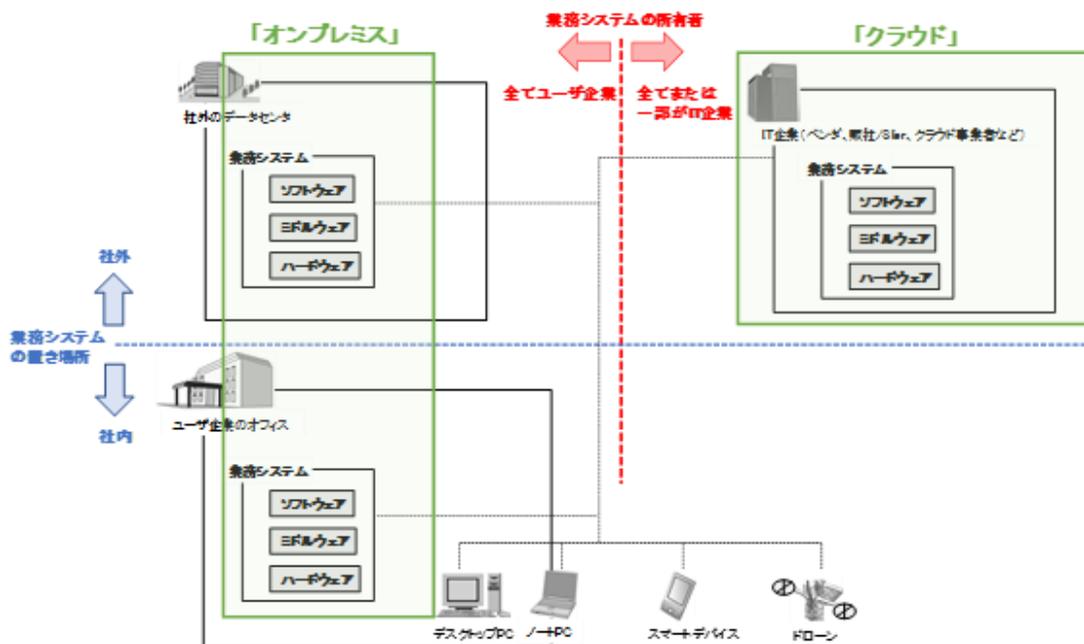
IT企業から提供する業務システムをユーザ企業が利用する形態

「スマートデバイス」：

タブレットやスマートフォンのようにタッチパネルによる入力を主体とする携帯端末(キーボードを取り外してタブレットとしても利用できるノートPCやオプションとしてキーボードを取り付けられるタブレットなどの場合は「タッチパネル入力を主体としているかどうか?」によってスマートデバイスかどうか?の判断基準となる)

以下の図が示すように業務システムの置き場所が社外であっても、ユーザ企業が業務システムを所有する場合には「オンプレミス」となる。つまり、本調査レポートにおけるクラウドとオンプレミスの違いは「ユーザ企業が業務システムを所有するかどうか」に基準を置いている。

クラウドとオンプレミスの判断基準



設問項目：B系列設問(2/4)

40項目に渡るIT活用場面(ITソリューション)は下記のように5つのグループに分けられている。

B1系列:顧客対応の改善(14設問)

B2系列:人材の活性化(7設問)

B3系列:データ処理の自動化(5設問)

B4系列:現場作業の効率化(8設問)

B5系列:間接業務の効率化(6設問)

以下では、B1系列～B5系列までの全てのB系列設問(40項目)の設問番号/設問文/説明文/具体例を列挙していく。(調査対象となるユーザ企業は以下の項目それぞれに関し、前述の選択肢に基づく活用状況を回答するという流れとなる)

B1系列:顧客対応の改善(14設問)

「B1-1.Web/メール/SNSを跨ぐ顧客対応」

メール開封/Webサイト閲覧/SNS書き込みなどを自動的に連携させて、緊密な顧客対応を行う

例) シャノン「MARKETING PLATFORM」、マルケト「marketo」

「B1-2.名刺のデータ化による顧客共有」

従業員が所持する顧客の名刺をデータ化して集約し、顧客情報を社内の複数部署で共有する

例) サンブリッジ「SmartVisca」、Sansan「Sansan」

「B1-3.店舗/施設における顧客動線分析」

店舗や施設を顧客がどのように移動するかをカメラで分析し、最適な商材や設備の配置を行う

例) スプリームシステム「Moptar」

「B1-4.電話一次対応窓口の外部委託」

顧客電話の一次対応を外部に委託し、相手連絡先や受電内容などをメールで通知してもらう

例) アイティファーム「ハートフルコールセンター」

「B1-5.AIを活用したチャット自動応答」

顧客とのチャットのやりとり(製品/サービスの問い合わせ対応など)をAIを用いて自動化する

例) 空色「OK SKY ChatBOT」

「B1-6.対話型ロボットによる顧客対応」

ヒトや動物を模したロボットを店舗や窓口に配置し、音声や画面を介して接客や情報提供を行う

例) FRONTEOコミュニケーションズ「Kibiro for Biz」

「B1-7.スマートスピーカによる顧客対応」

丸形や円筒型のスピーカを店舗や窓口に配置し、音声のやりとりによる接客や情報提供を行う

例) TIS/エーアイ「Aisonar」

「B1-8.遠隔会議を用いた接客やセミナー」

Web会議の仕組みを用いて、社内の従業員が離れた顧客向けに接客やセミナー開催を行う

例) ベルフェイス「bellFace」

「B1-9.顧客向けクレジットカード決済」

タブレットなどを企業側が導入し、顧客がクレジットカードで決済できる環境を手軽に構築する

例) Square「Square」

「B1-10.顧客向けQRコード決済」

顧客が持つスマートフォンにQRコードを表示する、または逆にQRコードを読み取ることで決済できる

例) Origami「Origami Pay」

「B1-11.会話音声分析による顧客対応改善」

顧客との会話音声を分析し、満足度の高い応対例を優良トークとして共有して品質改善を図る

例) NTTテクノクロス「ForeSight Voice Mining」

「B1-12.活動履歴分析による顧客対応改善」

従業員の営業活動を分析し、優先して対応すべき顧客や次に取り組むべき行動を自動的に提示する

例) マツリカ「Senses」

「B1-13.外国人顧客向けの音声翻訳」

会話でのやりとりをリアルタイムに翻訳することで外国人顧客の応対を改善する

例) みらい翻訳「みらい翻訳プラットフォーム(音声翻訳)」

設問項目：B系列設問(3/4)

「B1-14.外国人顧客向けの文書翻訳」

紙面/Webサイト/メールなどの文書を翻訳することで外国人顧客の対応を改善する
例) 八楽「YarakuZen」

B2系列：人材の活性化(7設問)

「B2-1.従業員のモチベーション向上」

業務状況を元に従業員の心理状態を把握/可視化し、上司や外部カウンセラーが助言を行う
例) エール「YeLL」、キーポート・ソリューションズ「Willysm」

「B2-2.人材データベースの有効活用」

従業員情報を顔写真や趣味なども含めて自己登録形式で共有し、人材情報の見える化を図る
例) カオナビ「kaonavi」

「B2-3.動画を用いたノウハウの共有」

成功事例や研修内容を動画で撮影し、複数の店舗や事業所に配信して業務ノウハウを共有する
例) TANREN「TANREN」

「B2-4.パート/アルバイトの労務管理」

パート/アルバイトの面接調整、勤怠管理、給与通知などをPCやスマートフォンで管理/実行する
例) 富士ソフト「FSCloud PAM」

「B2-5.従業員のメンタルヘルスチェック」

従業員の挨拶する声などを分析し、感情やストレスの状態を把握して事故や疾病を予防する
例) 日立システムズ「音声こころ分析サービス」

「B2-6.スキルや経歴に基づく人員配置」

従業員の経歴やスキルをデータベースとして収集/整理し、最適な人員配置を分析/発見する
例) サイダス「CYDAS.com」

「B2-7.カメラによる不正や過労の監視」

ヒトの挙動を認識できる監視カメラを用いて、従業員の不正行為や過重労働を発見/抑止する
例) 富士通「Sense YOU Technology Biz」

B3系列：データ処理の自動化(5設問)

「B3-1.PC操作内容の記録による自動化」

従業員が行ったPC操作内容を記録し、それを再生することによって処理を自動的に実行する
例) NTTデータ「WinActor」

「B3-2.業務フローの定義と連携による自動化」

複数の業務システムに跨る複雑な作業の流れを定義/連携し、処理を自動的に実行する
例) RPAテクノロジーズ「BizRobo!」

「B3-3.AIによる高度な内容判断を伴う自動化」

メールや文書の中身を認識し、顧客返答や承認判断などの高度な処理を自動的に実行する
例) ネットスマイル「AI-RPAロボ」

「B3-4.チャットの内容を理解した情報検索」

チャットで尋ねた内容を理解し、社内外の様々な情報源を検索して最適な結果を返答する
例) NTTコミュニケーションズ「COTOHA Chat&FAQ」

「B3-5.音声分析による議事録の自動作成」

会議の音声を分析することで、ヒトの作業を介さずに議事録のテキストを自動的に生成する
例) NEC「VoiceGraphy」

B4系列：現場作業の効率化(8設問)

「B4-1.手書き文字の自動認識によるデータ化」

現場で記録した手書き文字を自動認識し、データ化されたテキストとして業務システムに渡す
例) コクヨ「CamiApp S」

設問項目：B系列設問(4/4)

「B4-2.センサを用いた従業員の作業動線分析」

従業員が携帯するセンサの動きを分析し、工場や店舗などの現場作業における効率化を図る
例) パナソニック「Location Data Analyzer」

「B4-3.音声による現場作業の指示/報告」

ヘッドセットを通じた音声による作業指示や作業報告を行うことによって現場作業を効率化する
例) シーネット「ci.Himalayas/voice」

「B4-4.ウェアラブル端末を用いた作業情報共有」

眼鏡型のウェアラブル端末に様々なデータを投影し、手を離さずに作業情報を参照/共有する
例) オプティム「Remote Action」

「B4-5.スマートデバイスを用いた作業情報共有」

タブレットやスマートフォンのカメラ機能やGPS機能を活用しながら、作業情報を参照/共有する
例) MetaMoji「eYACHO」

「B4-6.ドローン空撮による撮影/測量/検査/警備」

ドローン空撮を用いて観光や不動産向けの撮影、建設での測量や検査、警備巡回などを行う
例) Rapyuta Robotics「Rapyuta c.drone」

「B4-7.VR/AR/MRを用いた従業員の研修/教育」

仮想現実(VR)、拡張現実(AR)、複合現実(MR)を用いて従業員の研修や教育を行う
例) エドガ「VR研修」

「B4-8.チャットやSNSによる社内情報共有」

メールの代替としてチャットやSNSを用いることで、対話やデータ共有を手軽かつ迅速に行う
例) トークノート「Talknote」、AOSモバイル「InCircle」

B5系列：間接業務の効率化(6設問)

「B5-1.労務関連手続きのオンライン化」

社会保険や雇用保険などの手続きをオンラインで従業員自身が入力することで省力化を図る
例) SmartHR「SmartHR」

「B5-2.経費精算手続きのオンライン化」

交通費などをオンラインで従業員自身が申請し、精算処理を自動化することで省力化を図る
例) ソウルウェア「kincone」

「B5-3.業務マニュアルのオンライン化」

紙面の業務マニュアルをデジタル化し、従業員がスマートデバイスなどで常に最新版を共有する
例) スタディスト「Teachme Biz」

「B5-4.領収書や契約書のペーパレス化」

契約書のデジタル化による印紙代/郵送代の節減やカメラで撮った領収書のデータ化による省力化
例) 弁護士ドットコム「クラウドサイン」、クラビス「STREAMED」

「B5-5.FAX送受信のペーパレス化」

内容を紙面に印刷することなく、業務システムやメールから直接FAXの送受信を行う
例) エクスパダイト「OpenText Fax2mail」、NTTコミュニケーションズ「BizFAXストレージ&リモート」

「B5-6.ICタグやバーコードによる物品管理」

企業が所有する様々な物品にICタグやバーコードを貼付し、資産情報を一括して管理する
例) キヤノンITソリューションズ「Convi.BASE」

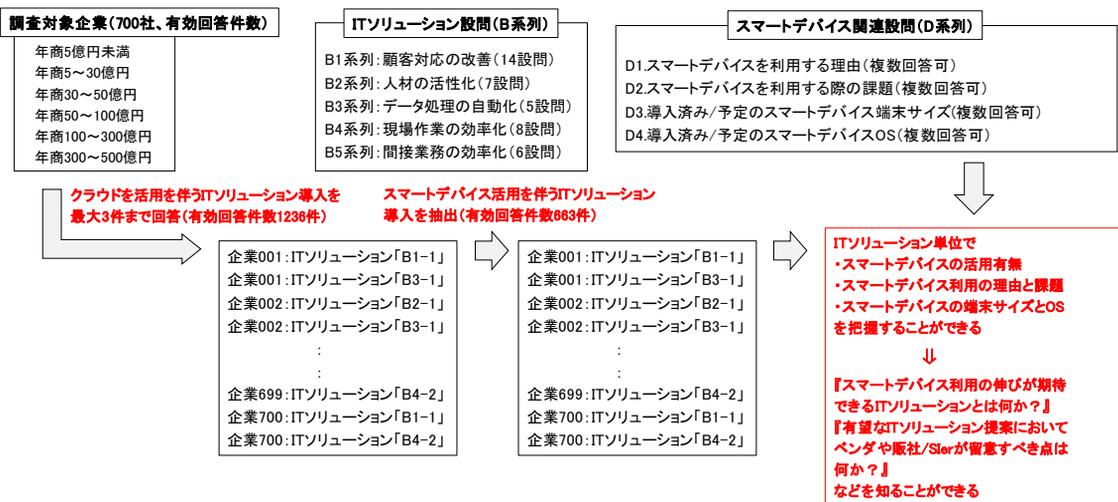
本調査レポートの「分析サマリ」は45ページ超に及び、集計データの中から重要度の高いものを取り上げながらベンダや
 販社/SIerがスマートデバイス導入提案に取り組む際に留意すべき事項や今後に向けた提言を述べている。
 以下のレポート試読版では分析サマリの『第4章. DX時代のITソリューションとスマートデバイス活用の関連』の一部を
 紹介している。

第4章. DX時代のITソリューションとスマートデバイス活用の関連

本章では「今後有望と考えられる40項目に渡るIT活用場面(ITソリューション)」とスマ
 ートデバイス活用との関連性を集計/分析している。

本調査レポートでは調査対象企業700社に対して、クラウド活用を伴うITソリューション
 活用場面(ITソリューション)(導入済みと導入予定の双方を含む)を最大3つまで選んで
 もらい、それらにおける「スマートデバイス活用の有無」、「スマートデバイスを利用する理
 由と課題」、「スマートデバイスの端末サイズとOS」といった詳細を尋ねている。

このように、企業単位ではなくITソリューション単位でクラウド活用との関連性を集計/
 分析することによって「スマートデバイス導入に繋げるために有効なITソリューションと
 は何か?」を明らかにしている。



第2章および第3章に述べたD系列設問に関する分析結果はITソリューション単位に回
 答された663件の結果を年商や業種といった企業属性を軸として集計/分析した結果であ
 る。本章ではITソリューション(B系列設問)との関連性を重点に置いた集計/分析を行
 う。

*****以下、省略*****

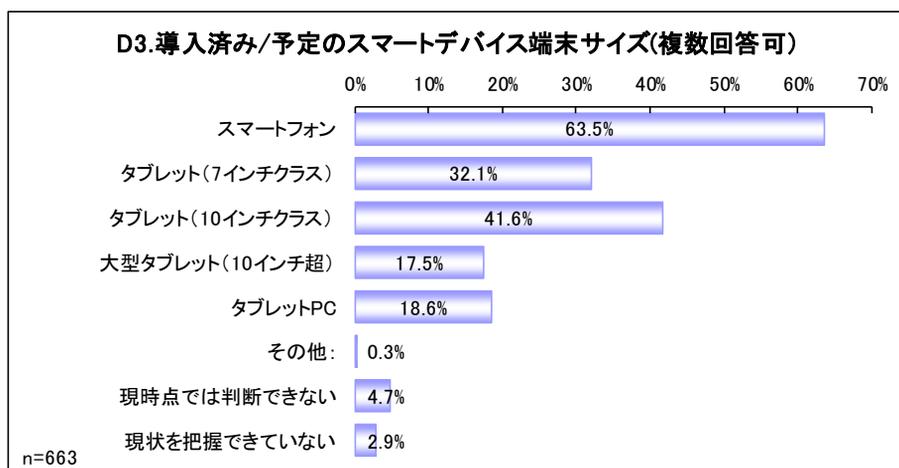
分析サマリではスマートデバイス利用の理由や課題、端末のサイズやOSについても様々な観点から集計/分析している。以下のレポート試読版では分析サマリの『第3章.導入済み/導入予定のスマートデバイス端末のサイズとOS』の冒頭箇所を紹介している。

第3章. 導入済み/導入予定のスマートデバイスの端末サイズと OS

本章では設問「D3. 導入済み/予定のスマートデバイス端末サイズ(複数回答可)」ならびに設問「D4. 導入済み/予定のスマートデバイス OS(複数回答可)」の分析結果について述べる。D系列設問は40項目に渡るDX時代に向けたITソリューション項目を最大3つまで選んだ結果のうちで、「クラウド活用を伴いかつスマートデバイスを利用するもの」を対象としている。つまり、D系列設問は企業毎ではなく、ITソリューション毎に尋ねた結果である点に注意する必要がある。本調査レポートの対象企業数は700社(有効回答件数)、クラウド活用を伴うITソリューションを最大3つまで回答した結果の合計件数は1236件である。さらに、その中の663件においてスマートデバイスが利用されている。したがって第2章と同様に本章においても、この663件が各設問の母数となる。

まずは、設問「D3. 導入済み/予定のスマートデバイス端末サイズ(複数回答可)」について見ていくことにする。

以下のグラフは年商500億円未満の中堅・中小企業全体に対して、設問「D3. 導入済み/予定のスマートデバイス端末サイズ(複数回答可)」を尋ねた結果を集計したものだ。(集計データ ¥ 単純集計データ ¥ 【D系列】単純集計. xlsx)



「スマートフォン」が最も多く挙げられていることから、ノートPCとスマートデバイスの分けでは「携帯性」が重要なポイントの1つになっていると考えられる。「タブレット」においては7インチクラスと比べて10インチクラスの回答割合が高い。「スマートフォン」では画面サイズが小さいが、ノートPCのようなキー入力が必要ないなどといった用途において10インチクラスが選ばれやすいと考えられる。

*****以下、省略*****

禁転載/禁抜粋: Copyright©2018 by Nork Research Co.,Ltd. All Rights Reserved.

レポート試読版4(「質問間クロス集計データ」)

「設問項目」に掲載した設問結果を他の設問結果を軸として集計したものが、「質問間クロス集計データ」であり、「主要分析軸集計データ」と同様にMicrosoft Excel形式で同梱されている。

以下の試読版に掲載したものは【B系列】の派生設問として、「スマートデバイス導入を伴うITソリューションを導入済みか、それとも導入予定か？」を集計した結果を軸として、【D系列】の各設問を分析したものである。つまり、現状(導入済み)と今後(導入予定)に分けた場合、スマートデバイス利用の理由や課題、スマートデバイス端末のサイズやOSの回答状況にどのような変化が生じているか?を把握するためのデータということになる。

スマートデバイスが登場した初期段階では「キーボード着脱可能なタブレットをPC代わりとして利用し、一般消費者向けの無償アプリケーションを活用すればコストを削減できるのではないか」といった期待も一部に見られ、PCや専用機器(POSレジなど)を代替することによるコスト削減を目的とした導入理由が少なくなかった。だが、昨今は日常生活の様々な場面でスマートデバイスを利用する機会が増えており、「顧客接点の拡大/維持」を理由としたスマートデバイス導入が目立つ。このように、現状(導入済み)と今後(導入予定)に分けた集計データは今後の戦略立案において非常に重要となる。

以下のMicrosoft Excelファイル名は『【D系列】(【B系列導入済み・導入予定】表側).xlsx』となっている。【D系列】の部分は本ドキュメントの3~4ページに記載されているようにスマートデバイス利用の理由や課題およびスマートデバイス端末のサイズやOSを尋ねた設問群であることを示している。【B系列導入済み・導入予定】の部分は【B系列】の派生設問として、「スマートデバイス導入を伴うITソリューションを導入済みか、それとも導入予定か？」を集計した結果であることを示している。このようにファイル名を見ることにより、「どの設問を軸としてどの設問の結果を集計したものか?」がわかるようになっている。

個々のシートには画面上部に軸を設定しない状態の縦帯グラフ、画面中央には特定の設問を軸として設定した集計結果の数表データ、画面下部にはその数表データを横帯グラフで表したものが掲載されるといった書式になっている。



本調査レポートの価格とご購入のご案内

【価格】180,000円(税別)

【媒体】CD-ROM (分析サマリ: PDF形式、集計データ: Microsoft Excel形式)

【発刊日】2018年5月29日

【備考】以下のURLより、調査レポートのサンプル/ダイジェストがご覧いただけます

「2018年 中堅・中小企業におけるスマートデバイス導入の理由と課題および端末選定の実態」

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2018SD_user_rel1.pdf

「2018年 中堅・中小企業向けのスマートデバイス導入に繋がるITソリューションの探索」

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2018SD_user_rel2.pdf

【お申込み方法】弊社ホームページからの申し込みまたはinform@norkresearch.co.jp宛にご連絡ください

ご好評いただいているその他の調査レポート(各冊: 180,000円税別)

『2018年版 DX時代に向けた中堅・中小ITソリューション投資動向レポート』

中堅・中小市場の攻略に不可欠となる40項目に渡る新たなIT活用場面(ITソリューション)の活用意向を網羅

【サンプル/ダイジェスト】

「2018年 MA/チャットボット/スマートスピーカー/ロボットなどによる顧客対応改善への投資意向」

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2018IT_user_rel1.pdf

「2018年「働き方改革」とは異なる堅実な「人材の活性化」を実現するITソリューション投資動向」

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2018IT_user_rel2.pdf

「2018年 中堅・中小企業における自動化およびRPA関連ソリューションへの投資動向」

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2018IT_user_rel3.pdf

「2018年 現場作業の効率化に繋がるIoT/デバイス関連ソリューションへの投資動向」

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2018IT_user_rel4.pdf

【レポート案内(サンプル属性、設問項目、試読版など)】

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2018IT_user_rep.pdf

『2018年版中堅・中小IT活用シーン別クラウド導入の実態/予測レポート』

中堅・中小企業がクラウドに期待する事柄の変化やクラウド導入に繋がるIT活用場面(ITソリューション)を徹底分析

【サンプル/ダイジェスト】

「2018年 中堅・中小企業におけるクラウド種別(IaaS/PaaS/SaaS)と課題&ニーズの変化動向」

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2018Cloud_user_rel1.pdf

「2018年 中堅・中小企業における間接業務のオンライン化/ペーパーレス化とクラウドとの関係」

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2018Cloud_user_rel2.pdf

「2018年 中堅・中小企業におけるクラウド型RPAに対するニーズ傾向と今後の課題」

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2018Cloud_user_rel3.pdf

【レポート案内(サンプル属性、設問項目、試読版など)】

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2018Cloud_user_rep.pdf

『2018年版 中堅・中小向け通信/ネットワーク関連サービスのニーズ予測レポート』

19項目に渡る通信/ネットワーク関連サービスを分析し、DX時代を見据えたIT活用場面(ITソリューション)との関連ニーズも網羅

【サンプル/ダイジェスト】

「2018年 中堅・中小向け通信/ネットワーク関連サービスの年商別および業種別ニーズ動向」

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2018NW_user_rel1.pdf

「2018年 中堅・中小向け通信/ネットワーク関連サービス導入に繋がるITソリューション提案」

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2018NW_user_rel2.pdf

【レポート案内(サンプル属性、設問項目、試読版など)】

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2018NW_user_rep.pdf

本データの無断引用・転載を禁じます。引用・転載をご希望の場合は下記をご参照の上、担当窓口にお問い合わせください。
引用・転載のポリシー: <http://www.norkresearch.co.jp/policy/index.html>

本ドキュメントに関するお問い合わせ

NORKRESEARCH

株式会社 ノークリサーチ 担当: 岩上 由高
〒120-0034 東京都足立区千住1-4-1 東京芸術センター1705
TEL 03-5244-6691 FAX 03-5244-6692
inform@norkresearch.co.jp
www.norkresearch.co.jp